

# 経営比較分析表

岐阜県 飛騨市

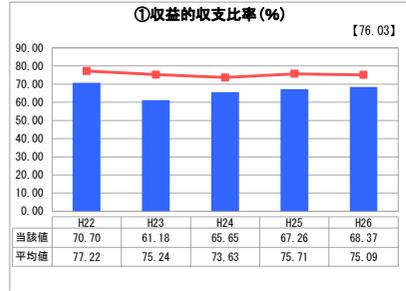
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	29.37	2,484

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
25,903	792.53	32.68
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,551	25.66	294.27

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



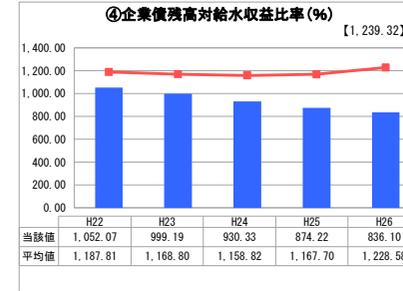
「単年度の収支」



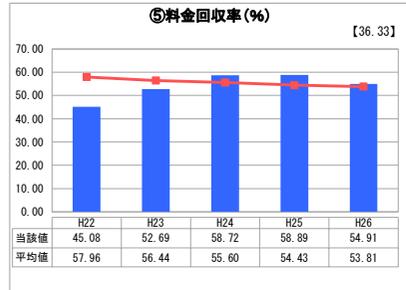
「累積欠損」



「支払能力」



「債務残高」



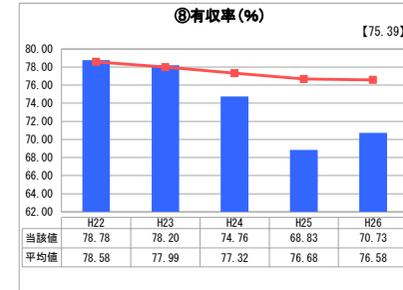
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

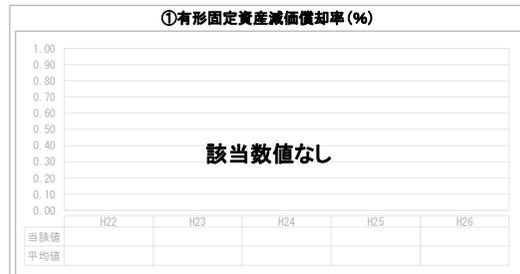


「施設の効率性」

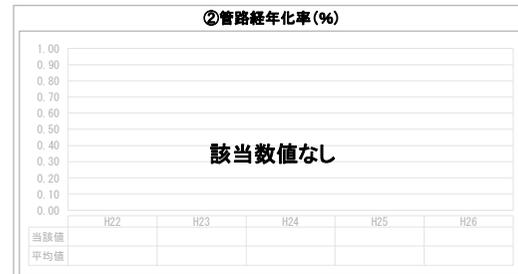


「供給した配水量の効率性」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

簡易水道事業においては、経常的な収支が、類似団体平均及び全国平均より低い数値となっており、継続して赤字収支であるため、企業債元利償還金や建設改良費などは一般会計からの繰入金に頼らざるを得ない状況となっています。また、料金回収率は類似団体や全国平均と比較しても平均並みですが、給水原価が供給単価を大幅に上回っており、経常費用が使用料収入を大幅に上回っている状態となっています。平成23年度からの使用料金統一に伴う段階的な料金値上げにより、一時上昇傾向でしたが、平成27年度に段階的な統一を完了し、今後は人口減少や節水等の要因により、料金回収率も減少すると見込まれることから、付近事業との施設統合や上水道への経営統合等により、経営の効率化を図る必要があります。一方いわゆる借金である企業債残高については、給水収益に対する比率が類似団体や全国平均よりも低く、年々順調に残高が減少しており、将来負担は軽減していく見込となっています。飛騨市においては類似団体、全国平均と比較し低い数字となっており、大きな課題となっています。これは、使用料金に反映されない漏水などが主な要因で、漏水箇所の特定、老朽管の更新など早急に対策が必要です。

### 2. 老朽化の状況について

簡易水道事業における管路の更新率は、当初の布設年度により、各年度において数値にばらつきがありますが、単年で1%の更新率であった場合、全ての管路を更新するためには100年を要することとなるため、法定耐用年数が40年であることを考慮した場合、単年度で2%以上の更新率が必要であると考えられますが、布設年度はそれぞれ異なるものであり、平準化されたものではないため、今後の更新時期等については、更新需要の平準化を考慮しつつ計画的に行っていく必要があります。

## 全体総括

簡易水道事業単体での経営は、経常収支が黒字に転じる見込みはなく、今後も一般会計からの繰入金に依存しなければ継続することは困難な状況となっています。今後は、経営の健全化、効率化を目的として、平成28年度より経営の安定している上水道事業へ経営統合を行い、飛騨市全体での水道事業として長期的な経営計画や資産のマネジメントを行ってまいります。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。